

開講期	2025年度前期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	6118 現代絵画論基礎1			開講形態（隔週 偶数＝隔週2コマ）	週間授業
種別	なし			定員	
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	×	全学開講	○
曜日時限	月曜4限				
教室	E203(メディア室3)				
代表教員	栴田 ちひろ				
担当教員	栴田 ちひろ				
テーマと到達目標	テーマ：絵画表現の論理 到達目標：絵画における基礎知識の習得				
概要	表現をするときに絵画というメディアを選択する理由は何か、そもそも表現の動機は何か、何を表現すべきなのか。「自画像」「静物画」と言った絵画の形式が今までどのように表現の中で用いられ、そして現在にどう生きているのか。実際の事例を通じて学ぶことで、現在を生きる作家が表現をするために必要な視点とは何かを考察し、絵画表現をするための思考や絵画を批評するための能力を養う。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員（複数の教員が担当する場合のみ記載）	授業方式
第1回	画材の絵画史				対面授業
第2回	自画像：「私」を通して描く私性				対面授業
第3回	宗教画：信仰の表象				対面授業
第4回	静物画：日常と死へのまなざし				対面授業
第5回	人物画：画家とモデル				対面授業
第6回	風景画：眺望の絵画				対面授業
第7回	抽象画：テキストからの逃亡				対面授業
第8回	コンセプチュアルアート：概念の表象				対面授業
第9回	額縁と絵画				対面授業
第10回	絵画の方法1：問題提起としての絵画				対面授業
第11回	絵画の方法2：癒し/嘆きとしての絵画				対面授業
第12回	絵画の方法3：超絶技巧と絵画				対面授業
第13回	絵画と鑑賞1：展示空間				対面授業
第14回	絵画と鑑賞2：テキスト				対面授業
第15回	まとめ				対面授業
成績評価の基準	毎授業での小課題評価50%、期末レポート評価50%にて成績を算出する。2/3以上の小課題提出と期末レポート提出を単位取得の条件とする。				
履修にあたっての留意事項	各回講義後に時間をとり、小課題に取り組む。 本授業は、美術作家としての実務経験を有する教員が担当する。作品制作を行う立場から、現在を生きる作家が表現を行う上で必要となる視点について考察し、また実際の事例を講義内で共有することで、受講者が絵画表現をするための思考を深めるとともに、絵画を批評する能力を養うことを目的とする。				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					

【種別】人数制限（抽選）授業の優先条件	
---------------------	--

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用			
教科書		教科書(ISBN)	
参考文献	「表象文化論講義 絵画の冒険」小林 康夫 著、東京大学出版会 「画材の博物誌」森田 恒之 著、中央公論美術出版 「静物画」エリカ ラングミュア 著、八坂書房 「風景画論」ケネス クラーク 著、筑摩書房 「コンセプチュアル・アート (岩波 世界の美術)」トニー ゴドフリー 著、岩波書店 「ART SINCE 1900:図鑑 1900年以後の芸術」ロザリンド E クラウスほか、東京書籍 上記以外については授業内で指示する。	参考文献(ISBN)	「表象文化論講義 絵画の冒険」小林 康夫 著、東京大学出版会 「画材の博物誌」森田 恒之 著、中央公論美術出版 「静物画」エリカ ラングミュア 著、八坂書房 「風景画論」ケネス クラーク 著、筑摩書房 「コンセプチュアル・アート (岩波 世界の美術)」トニー ゴドフリー 著、岩波書店 「ART SINCE 1900:図鑑 1900年以後の芸術」ロザリンド E クラウスほか、東京書籍 上記以外については授業内で指示する。